

各地の話題 ー福島県における植物防疫業務の取り組みー

福島県病害虫防除所 佐々木 宜知

(福島県農業総合センター安全農業推進部)

福島県は、東北地方の南部に位置し、面積は北海道、岩手県に次ぐ全国第3位の広さがあります。本県は東西に長い形状をしています、2つの山地によって浜通り・中通り・会津の3つの地方に分かれています。太平洋沿岸の浜通り地方は沖合いを流れる暖流（黒潮）の影響により夏は涼しく、冬は暖かい気象です。阿武隈川流域の中通り地方は降水量も1,100mm - 1,400mmと東北地方の中では少ないほうです。阿賀川流域である会津地方は日本海側気候となり雪の多い地域となっております。

2008年（平成20年）発表統計データでは本県の農業産出額は2,500億円。主要農産物は、水稲、モモ、リンゴ、オウトウ、ナシ、カキ（あんぽ柿、会津身不知柿）などの果物、トマト、キュウリ、イチゴなどの野菜、キク、リンドウなどの花き、山菜などです。

2006年（平成18年）4月に農業試験場、果樹試験場、たばこ試験場、畜産試験場、養鶏試験場の試験研



福島県農業総合センター本館

究機関と、農業短期大学校及び病害虫防除所、肥飼料検査所を再編統合し、福島県農業総合センターが発足し、病害虫防除所の業務は、農業総合センター安全農業推進部に引き継がれました。

安全農業推進部には、指導・有機認証課（農薬適正指導、残留農薬検査、野生鳥獣による農作物被害に関する業務、有



水稲すくい取り調査

機農産物の認証、肥飼料検査）と発生予察課（発生予察事業、病害虫同定診断、防除対策情報の提供、病害虫検疫業務）が設置されています。

病害虫発生予察は、水稲、ムギ、ダイズ、モモ、ナシ、リンゴ、カキ、トマト、キュウリ、イチゴ、キクの11作物、124病害虫を対象に行っています。広大な面積を有する本県では、山で隔てられた地形のため、浜通り、中通り、会津で生育期間の気象も大きく異なる場合があります。野外で栽培の行われている水稲、ダイズなどの普通作物、ナシ等の果樹では病害虫の発生様相が微妙に違ってくることが度々あります。

近年は、水稲いもち病、水稲斑点米カメムシ類、ナシ黒星病、モモせん孔細菌病などが問題となることが多く、これら病害虫の発生時期や発生量の予察が重要になっています。

検疫関係の業務としては、県内5か所でチチュウカイミバエ、火傷病の侵入警戒調査を、県内2か所でコドリノガの侵入警戒調査を行っております。また、ウメ輪紋ウイルス（ブラムポックスウイルス）の発生状況を県内50か所で調査しています。この他、2009年（平成21年）にはトマトのPSTVd（ポテトスピンドルチューバーウイルス）の発生予察特殊報を発表しました。



モモ予察調査



野菜予察調査